広報 いまかね

発行　今金町役場　　編集　企画室　　印刷　野宮印刷　　44.3.20発行



写真＝神丘福祉会館で学ぶ児童たち

3月のこよみ

3日　耳の日
9日　皇后誕生日
7日　消防記念日
18日　彼岸入り
21日　春分の日
24日　彼岸明け
25日　電気記念日

3月

No.129

〃おそろしい火災　危険はいつぱい〃

魔の2月23日午前4時、一瞬にして神丘小中学校が全焼児童生徒は寒風の中でただぼうぜんとするのみ、このおそろしい火災は私たちに何を教えたか。

災害は忘れたころやつてくるという格言があるが、自分は火事にあわないという無関心さが危険である。毎日の午後10時消防の時間を大切にしよう。

世帯と人口　世帯数 2,793　　人口 11,898（男5,792 女6,106）44.2.28現在



◆悲惨な火災を町ぐるみで追放しよう◆

昨年二月、一名の焼死者をだしたいろはアパートの火災からちょうど一年、その猛煙が脳裏から消えないうちに、吹雪の中で由緒ある神丘小中学校がもろくも焼け落ちた。また十日後にも大事にはら至なかったが、国保病院の近くの物置が焼けたちょっとした不注意から一瞬のうちに財産はおろか生命までも奪う火災を町ぐるみで追放しよう

常にある火災の危険

世界でいちばんさきに火を使ったのは北京原人（中国）といわれ、約五十万年前の大むかしのことです。

この時代の人たちは、火をおこすことは知らず、自然に発火した火を木の枝にでも移し使用したのでしょう。しかしこの自然に発火した火が問題なのです。人類がまだ家を建てることを知らない時代から、野火などの危険にさらされていたわけです。

人間生活が進歩するほど火を用いることが多くなりとくに今日のように石油やガスを日常生活に使用するようになつてからは常に火災におびやかされながら生活しているといつても過言ではありません。

十年間に五千万円が灰に

さて、今金町の過去十ケ年の火災は、別表のとおり建物、林野合わせて六六件発生しております。

気象条件や消防団の活躍などから幸いめだつた大火はありませんが、その損害額は神丘小中学校（損害額約二千万円）を含め、約五千万円の多額に及んでおります。また、月別にみますと火を扱う機会が多い十月から五月までが多発しています。

増える焼死者事故

今金町でも昨年一名の尊い人命を失いましたが、全国的に最近特に火災による死傷者が増えています。

これは、最近の非常に機密な構造の建物、燃えやすく大量な有毒ガスを出す建材などの理由が考えられますが、防止策として非常口や避難口の準備を忘れてはなりません。

要はちょつとした注意

消防団では、火災発生の際は出動し、最低限度にくいとめ、わたしたちの生命財産を守つてくれますが、現在の消防力は、別表にみるように決して満足なものではありません。

町では年次計画をもつて施設を進めております。

しかし、いくら消防力が充実しても、要は火を出さないという注意でもありません。火災の発生原因をみても電気器具のスイッチの切り忘れ、残り火の不始末、寝たばこなどのちよつとした不注意からによるものがほとんどです。

わが家、わが町の防火対策をもう一度検討して、火災のない平和な今金町にいたしたいものです。

今金町過去10ケ年の火災記録

年区分	出火件数 計	建物	林野	損害見積額 千円
34	5	4	1	403
35	6	5	1	4,203
36	6	6	0	1,134
37	6	5	1	6,368
38	7	7	0	2,568
39	5	5	0	521
40	9	8	1	2,181
41	8	6	2	3,202
42	6	6	0	3,097
43	8	3	5	9,655
計	66	55	11	33,332

消防力の現況

分団	員数	小型動力ポンプ	積載車	消火せん	貯水そう
今金	97	3	3	37	12
種川	34	1	1	—	2
花石	35	—	2	—	2
美利河	30	—	1	—	—
計	196	4	7	37	16

ご苦労さん　火の用心

両親の少年防火クラブは三十九年春に結成されて以来、毎年三年生に引き継がれ、種川市街地では三十八年十一月から五年間、無火災が続いております。

初年次はこの五月から二年生の十人に引き継がれましたが、今後ともこの伝統を続けて、いつまでも火事のない部落をつくりあげようと張切っています。

今小前の歩道橋設置など
―四十四年度道開発予算決まる―

昭和四十四年度の道開発予算は、当初予想以上にきびしい大ナタが振るわれ難航を続けましたが、新年早々から上京陳情の結果　本町の特殊性が認められ大幅な復活要求が通り、将来の農、林、畜産振興上明るい見通しがつきました。

本年度実施される主な事業は次のとおりです。

◆道　路

年々改良が進められている道々八雲―今金課では、八千六百万円で今金―日進間十五キロ凍雪害防止工事が実施されます。また同区間は、日進に設置される除雨機械センターを中心に除雨が実施され、陸の孤島から解放されます。

この外、今金―春日井間二・四キロも凍雨害防止事（二千四百万円）が行われます。

昨年　神丘、中里地区が舗装された長東線は、種川開田橋から中里寄りに七キロが一億四百万円で舗装されます。

◆河　川

利別川の洪水調節を図る美利河ダム建設の予備調査が百万円で着手されます。

また、一級河川利別川や



写真＝歩道橋が設置される今小前交差点

オチヤラツベ川などの河川改修、維持修繕費として合計二億八千万円が計上されました。

◆橋　梁

今金―北桧山線の八鈴橋が五千五百万円で永久橋（六二・四㍍）にかけ替えられます。

◆農　業

四十一年度から着工された北桧山総合かんばい事業は、左岸地区二億円、右岸地区一億五千万円が確定し第一幹線水路の改修、宮前内ダムの放排水トンネルなどの工事及び用地補償費にあてられます。

また、昨年から調査が始まつた日進共同利用模範牧場に九百万円の調査費が認められました。

◆交通安全

車輛の増加に伴い学童の事故の危険性にさらされていた今金小学校前の道々長東線に八百万円で横断歩道橋（長さ三十九㍍、幅一・五㍍）が設置され、不安なく通学できるようになります。

便利になつた農集電話
―種川地区の165戸が開通―

昨年秋から工事が進められていました種川地区農村集団電話は、工事完了し二月二十八日午前十時から開通しました

加入戸数は、寿栄から中里までの百六十五戸で、この開通によつてたいていの用事は電話ですむことになり大変便利になりました。

これで町内九百戸の農家のうち、一昨年春開通した今金地区と合わせ、五百七十三戸、六十四％に電話が



写真＝種川地区中継機

ついたことになります。

今金電報電話局ではりの電話の取り扱いについてつぎのようにのぞんでいます。

⊙発信音を確かめる

受話機をとつてツーン（発信音）と音がきこえたらダイヤルをまわす。

⊙お話しがすんだら受話機をキチント

受話機をはずしていたりキチンとかけないでいると他の人が電話をつかえなくなります。

⊙ムダ話しや長話しをしない

ムダ話しや長話しをしていると他の人がつかえないので、用件をメモしてから電話をするよう心がける。

⊙ダイヤルは正しく指どめまで

ダイヤルを指どめまで正しくまわさないと、ちがうところにかかります。

⊙ダイヤルをまわし終ると

一、プルーン、プルーン（呼び出し音）と音ができますなかなかでないときはルスですからいつたん受話機をかけて、時間をおいてからかけなおしてください。

二、プー、プー（話し中の音）とおとがするときはすぐ受話機をかけてください

融雪災害に備えて

気象予報河川の状況に十分注意し、増水が予想されるときは、直ちに町消防団に通報する。



〝新しい農業のにない手に〟

―農業学園生募集中―

農業を近代化し、豊かな町を建設するため、農村青少年に農業経営及び農家生活に必要な近代的な知識と技術を習得させ、すぐれた農業後継者を育てようと、町では今年も農業学園生を募集しています。

この農業学園は、昭和四十年から毎年開園され、働きながら学べる通信教育、合宿教育として親しまれており、現在まで五十名の卒業生を送り出しています。

昨年までは、冬期合宿研修も場所が定まらず、おちついた学習ができませんでしたが、新年度からは完成したばかりの青少年会館を使用することに決まり、楽しい学園となるものと期待されています。

募集要綱はつぎのとおりですが、詳しいことは役場産業課へお問い合せください。

▲入学資格
農業に従事するおおむね十八歳未満の中学校卒業生

▲募集人員
おおむね三十人。

▲入園手続
四月十日までに願書類（役場産業課にある）を添えて学園長に提出する。

▲修業年限 二ケ年

▲経費
授業料は徴収しない。ただし合宿教育及び面接指導等の宿泊その他に要する経費は学園生の負担とする。

▲手当
奨学手当（年額二千円）と被服手当（金額千円）を支給する。



黒いしぶきは ごめんです

どろはね運転はやめよう

雪がとけ道路がよごれてくると、歩行者に泥水をはねかけながら車を走らせてる運転者を見かけます。

逃げ場のない歩行者は、黒いしぶきをかけられないかと車が通るたびにびくびくするだけ。

運転者は、水たまりのある道路では必ず車のスピードを落とし、歩行者に迷惑をかけないようにしてほしいものです。

車に泥水をかけられたときは、車のナンバー、色、型、商社名などを覚えておいて警察に届け出てください。そばで見ていた人に証人になってもらうのもたいせつなことです。

『新しくなる』国保被保険者証

二年に一度づつ更新する国民健康保険被保険者証（手帳）が四月一日から新しい手帳に変ります。

今まで使用していた黄色の手帳は使用できなくなり新しい手帳とひきかえ交付することになります。

家族に異動（転出、転入他社保加入）があるときには、国保税の課税にも支障がありますので早急にその旨を届け出てください。

よろこび・かなしみ

〈二月分〉

⊙出生22名
吉田真二（武・奥沢）
外山孝治（光義・東町）
川瑞 篤（毅・大和町）
阿部寛之（光寛・柳町）
高原美雪（浅吉・未広町）
柳 信子（僖・東町）
関田智美（貴義・栄町）
木島佳克（武雄・未広町）
千葉聡美（聡彦・美利河）
小原恵子（晋三・東町）
成田光子（英之・神丘）
矢部 誠（正吉・未広町）
加藤英一（茂・柳町）
八重樫英樹（祐・新栄町）
岩橋典子（貞夫・未広町）
上村寿行（菊美・開運町）
萩野賢二（繁・種川）
塔田勝則（国夫・南町）
笹原利浩（五郎・新栄町）
山田梅彦（賢・緑町）
丸山洋美（恵三・金原）
阿部禎之（和朗・未広町）

⊙婚姻6組
北村八郎＝斎藤ユミ子（神丘）松下和悦＝仁木紀子（今金）宗像洋二＝鈴木順子（美利河）小西治男＝対馬陽子（御影）伊藤英雄＝木村鈴江（住吉）鈴木知明＝小山勢津子（今金）

⊙死亡6名
八重樫こえと82（寿界）坂井与市67（神丘）木島喜子24（白石）阪井進38（八東）高安臣一55（市代）中野かねの86（神丘）

北海道百年記念塔をみんなの手で築こう

「北海道百年記念塔」は北海道の開拓に心血を注がれたすべての人々に対し、感謝と慰霊のこころを捧げるとともに、今後先人の偉業を受けついで、さらにりっぱな郷土を建設しようとする道民の総意をこめて札幌郊外の道立自然公園の中心に高さ百米、総工費四億五千万円で建設されます。

すでに昨年の十一月に着工し、建設工事の完了は七月ごろの予定です。

この記念塔は、今金町出身の井口健氏（29歳）の作品をもとに設計されたもので、本人の名誉ばかりでなく本町の光栄でもあります建設資金は、道内から広く募集調達されていますが本町でもただいま一戸百円募金を実施しており、三月十五日現在で十二万二千七百十円集まっています。

北海道百年記念塔をみんなの手で築きましょう。